



\*学校便り作成にあたり、生徒の文章や写真を使用する場合があります。高岡中学校個人情報取扱規程を遵守しておりますが、お気付きの点がありましたら学校までご連絡ください。

## 令和2年度 高中祭



10/30(金)、令和2年度「高中祭」が開催されました。今年は感染症対策を一番に考え、全校生徒が入っても密にならないよう、収容人数の多い「金沢歌劇座」大ホールを貸し切り、座席も市松模様にして鑑賞しました。午前の部はクラス対抗の合唱コンクール、午後の部は吹奏楽部の演奏と3年学年劇の舞台発表がありました。

生徒の感想からも大変充実していたことが伝わります。特に3年学年劇は、金沢市立高岡町中学校第一回卒業生答辞(昭和23年3月)を元に本校野坂先生が福井県まで行って取材し、脚本に仕上げたもので、全高生がキラキラ輝いていました。

保護者、地域の皆さんのご協力に感謝し、以下に感想の一部を紹介します。

スタッフで初めから練習にいたけど、すごく感動しました！工場長の時、たくさん笑っていたので良かったです。ほかのキャストも練習よりもとても良かったです。感動しました。最高でした。

劇のクオリティがとても高く、特にダンスが全員揃っていてとてもかっこよかったです！とても感動する話でした。

とても感動しました。3年間で一番いい劇が見られたと思います。ダンスもよかったです。

3年生の団結力が劇に現れていて、表情や言葉に気持ちがこもっていてすごくいいと思いました。3年生はすごいです。戦争の悲しみ、今の平和についてよく学びました。私たち2年生も来年、その素晴らしい劇を超えられるように頑張りたいです。(2年)

3年生のキャストの皆さんの演技が上手で2階席まで声が聞こえました。ダンスもすごく上手でした。わかりやすい内容にとっても感動しました。とても勇気がいると思いました。(1年)



【写真上3年劇の様子】



【↑ 合唱コンクール】



【↑ 吹奏楽部中庭で演奏】

### チャレンジ90

11/2~1月末までの約90日間、生徒が自分で設定した目標学習時間を達成しようと頑張ります。ご家庭でも温かく見守ってください。

### 最優秀賞 おめでとう！

「令和2年度偉人に学ぶ自分の生き方・夢作文」で、3年3組原崎咲来さんが最優秀賞に決定しました。表彰式は11/25に行われます。

### 吹奏楽部中庭演奏会

11/3(祝)日本吹奏楽指導者協会呼びかけによる演奏会を、おあしす広場で行いました。お天気に恵まれ、よい会となりました。

部活動冬時間...~17:00、延長~17:45(完全下校18:00)

冬の服装...11月~防寒具等の着用可

## 表彰の記録

### 加賀地区中学校新人バドミントン大会 男子団体優勝！

#### 男子バドミントン

加賀地区中学校新人バドミントン大会 男子団体 優勝  
前結心、中島圭優、五味川稔、亀田太一  
前田颯斗、山辺楓雅、岡田倫太郎

#### 陸上

加賀地区中学校新人陸上大会  
走高跳 1位 稲垣公生  
走幅跳 2位 濱野嵩斗  
1年1500m 2位 金子聡太  
4×100mリレー 7位 堀内花梨、中島海愛  
宮崎なな、小篠凜  
最優秀選手 稲垣公生  
男子総合 6位 大西風

#### 金沢市中学校読書感想文コンクール

最優秀賞 1年 岡田倫太郎  
優秀賞 1年 藤岡 珠輝

#### 金沢市e~coと川柳

一般の部 優秀賞 3年 塩谷 朋佳  
「通販の過剰包装 マトリョーシカ」  
第二十六回児童生徒きりえ作品展  
入選 2年 中里 友結

#### 硬式テニス

北信越中学校選抜新人大会 男子団体 第3位  
赤羽根達真、下内玲央斗、堀内正太、石垣燎真、下内勇人  
西脇大洋、奥田勝斗

# 「褒め上手」になろう

今年の中高祭は、コロナ禍における制限の多い中での開催でした。それでも、本校生徒は、素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。久しぶりにどの学級も全員マスクを外して、大きな歌声を会場いっぱいに響かせ、吹奏楽部も練習時間の少ない中、3年生の先輩に負けないうくらい素晴らしい音を響かせていました。そして圧巻は3年生による学年劇、キャストの皆さんによる迫真の演技、40名以上の生徒によるダンス・パフォーマンスは、手前みそになりますが、中学生の文化祭レベルをはるかに超えたクオリティーの高さを誇り、1時間がアツと言う間に経ち、ほとんどの観客は瞬(まばた)きもしないで見入っていたのではないのでしょうか。さらに、これらの脚本・創作ダンスは全て生徒と先生の手作りによるもので、本当に素晴らしく「ブラボー！」の一言でした。

閉会式でもお話ししたのですが、この紙面を借りて保護者の皆様にもぜひ伝えたいと思い、ここに記載しました。

さて、前々回の「学校だより第8号」では、「アンガーマネジメント」と題し、不要な怒りをなくし自分をコントロールすることが成功体験への秘訣であると執筆させて頂いたので、今回は「褒める」をテーマにし、これを意識することがコミュニケーション力を高め、良い人間関係を構築する重要なポイントであることをお伝えしたいと思います。

以前も記載しましたが、私は授業でも部活動でも、そして集会でも怒ってばかりいました。生徒は大人くなりましたが、反面意欲に欠け、自分から率先して何か行動を起こすという姿勢が少なくなり、指示待ち人間が多くなっていったような気がします。車に例えると、アクセルを吹かさずにブレーキばかり踏んでいるようなもので、当然車は前に進みません。アクセルを吹かさないと進まない、アクセルの使い方をもっと勉強する必要がある。そう思って研究した結果、このアクセルの使い方こそが「褒める」ことであり、意欲の向上、そして勢いにつながることに気が付いたのです。そこで、「褒め方」の原則を見つけたので、お伝えします。

- ①まずは褒める（相手が喜ぶことをさがして伝える）
- ②できていることを褒める
- ③見てほしいこと、努力していること、頑張っていることを褒める
- ④褒め方、表現方法を工夫する
- ⑤褒めることで相手の反応を見て、さらに加えて褒める

最近、テレビで食べ物を扱う番組が増えてきましたが、そこには「食レポ」と呼ばれる人が出てきます。特に上手なコメントをする人は、この原則を徹底しています。褒められた料理人は、取材だと分かっているのに悪い気はしないし、次への意欲にもつながるといいます。ただし、その表現方法が上手くないとせっかく褒められても嬉しい気持ちになれないそうです。

私が、テレビで上手だなあと思う食レポ人、それは「石ちゃん」こと、石塚英彦さんです。「まいう〜」の決めゼリフで料理及び料理人を褒め、周りの笑いを誘っている人です。彼が、ある雑誌で「私は番組の中では料理を褒めることしか考えず、料理した人の情熱をしっかりと楽しく伝えることを大切にしている」と言っていました。確かに彼の番組を見ていると、その一言で料理を作った人が本当に嬉しそうな顔になり、その顔を見ている人も楽しく幸せな気分させられる、そんな雰囲気醸し出しているように思えます。実はよく見ると、彼がそのゼリフを言うまでかなりの準備をしていることが分かります。お店の雰囲気、使用する食器、そして料理人の家族なども観察し、様々な角度からコメントし笑いを誘っています。さらに「まいう〜」という言葉自体も、様々な表現方法を工夫しているのです。あくまで私の主観ですが、褒め言葉1つによって、多くの人を幸せな気持ちにできる、このことを「石ちゃん」から学んでいます。さらに大切なことは、褒め言葉をもらった「ありがとう、嬉しかったよ」など感謝の気持ちを返すことです。そうするとギブアンドテイクが成立し、良い人間関係を継続することにつながります。

今はメール、コメントの全盛時代、大人も子供もコメント力を磨き高めることが人間関係の構築にも影響する時代なので、日々の生活の中で「褒め上手」になることを意識してはいかがでしょうか。

ただし、ブレーキの踏み方を知らないと事故に遭うのは言うまでもありません。注意すること、叱ること、そしてその受け方を身に付けることも忘れないでください。

11月は旧暦で「霜月」と言い、ますます寒さが厳しくなり、文字通り早朝に霜が降りるくらい冷え込むようになって来ます。3年生は統一テスト直前、いよいよ受験シーズンに突入しますが、感染症対策を万全にして、何とか乗り切ってほしい。応援していますよ。

